

奥入瀬小学校閉校

106年の思い出を胸に 学び舎とお別れ

2月19日、奥入瀬小学校閉校記念式典が同校体育館で行われ、歴代校長やPTA会長、卒業生、地域のかたがたなど関係者約130人が出席しました。

奥入瀬小学校は明治37年、法奥沢村立法奥尋常高等小学校測沢分教場として開校、昭和22年、奥入瀬小学校・奥入瀬中学校に校名が改称され、昭和53年には中学校が当時の法奥中学校に統合されました。昭和30年代には児童数が約150人を超えた時期もありましたが、少子化や校舎の耐震調査による危険性などの理由により、平成22年度で閉校。1200人を超える卒業生を送り出しました。

式典で小山田市長は「地域の皆さんにとっては寂しい限りだと思いますが、これまでの長い間に培われた校風、伝統は皆さんの心に、ふるさとの絆として生き続けていくと思います」と式辞を述べました。続いて向井博校長は「本校最後の在校生となった20人の子どもたちも、奥入瀬小学校で学んだ自信と誇りを持って、新しい環境の中で一步一步確実に前進してくれることを期待しています」とあいさつしました。

その後、児童全員で学校の畑で野

菜を育てたことや、梅ジュースを作った思い出を発表、最後に校歌を斉唱して学び舎に別れを告げました。

閉校記念式典に参加した昭和26年度第5回卒業生の漆坂ふじゑさんは「創立70周年記念式典に出席して以来、今日は30数年ぶりに訪れました。コンクリートの校舎は卒業当時の木造校舎とは違いますが閉校は残念です」と学び舎との別れを惜しんでいました。

在校生は4月から、法奥小学校で新たな学校生活を歩みます。



児童一人一人が学校の思い出を発表しました



出席者全員で校歌を斉唱し式典を終えました



- ① 静まりかえった教室
- ② 懐かしい写真に見入る出席者
- ③ (左) 児童一人一人の思い出や学校の歴史を収めた閉校記念誌 (右) 閉校記念式典のしおり